

平成 2 2 年 度

徳島県公立高等学校入学学力検査（後期選抜）の成績結果の概要

本年度の徳島県公立高等学校入学学力検査（後期選抜）は、国語、数学、社会、理科、英語の5教科について実施した。

配点は、各教科100点満点で、学力検査の総点は、500点満点である。

問題作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された範囲内で、平常の学習によって養われた力で解答できる問題となるように配慮した。

基礎的・基本的な知識・技能の定着や、思考力、判断力、表現力等を見ることができると出題した。また、選択肢形式の問題と記述形式の問題とのバランスを考慮し、文章記述の問題も加えた。教科によっては、選択問題も出題した。

5教科総合の平均点は、100点満点に換算して、51.9点であり、昨年度より4.3点低く、過去5か年の平均点より6.5点低かった。なお、成績集計の結果は、次の表のとおりである。

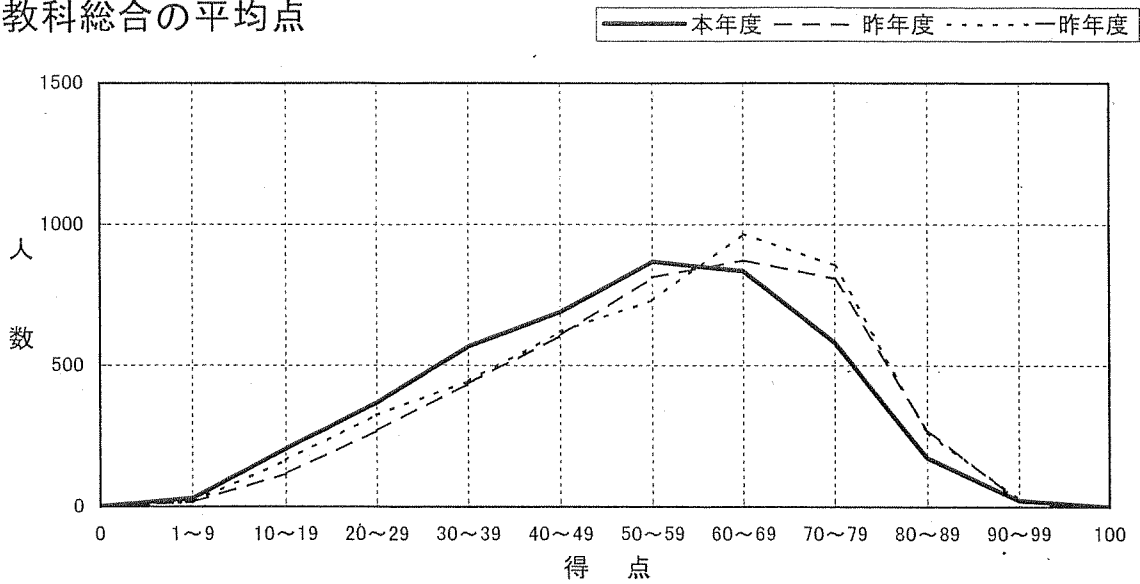
平成22年度
徳島県公立高等学校入学学力検査成績表

受検者総数 4354名

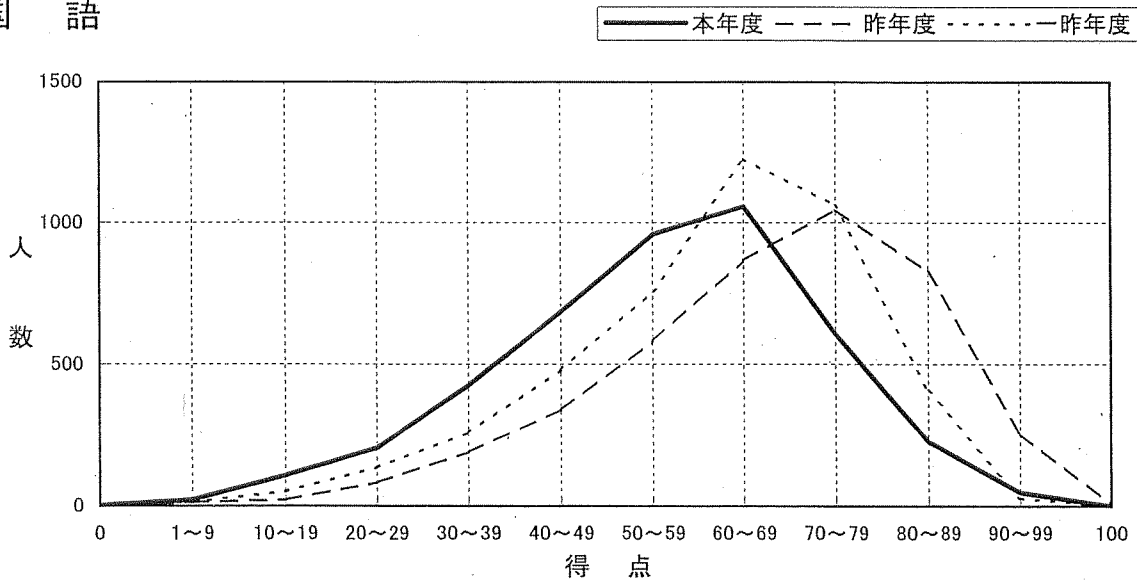
年度 教科	本年度		平成21年度		平成21 年度の 平均点 と比較	過去5 か年の 平均点	過去5 か年の 平均点 と比較
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差			
国語	55.5	17.2	67.1	17.2	-11.6	64.4	-8.9
数学	53.2	20.9	48.5	18.5	+4.7	51.0	+2.2
社会	50.8	21.5	55.2	21.0	-4.4	59.2	-8.4
理科	53.6	20.4	59.2	21.2	-5.6	60.1	-6.5
英語	46.3	23.6	51.2	22.0	-4.9	57.1	-10.8
5教科総合	51.9	18.6	56.2	18.1	-4.3	58.4	-6.5

年度 教科	平均点					
	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
国語	62.0	69.0	62.7	61.3	67.1	55.5
数学	56.3	50.7	49.7	50.0	48.5	53.2
社会	64.5	60.6	60.3	55.3	55.2	50.8
理科	66.6	64.1	50.1	60.4	59.2	53.6
英語	69.9	56.7	56.7	51.2	51.2	46.3
5教科総合	63.9	60.2	55.9	55.7	56.2	51.9

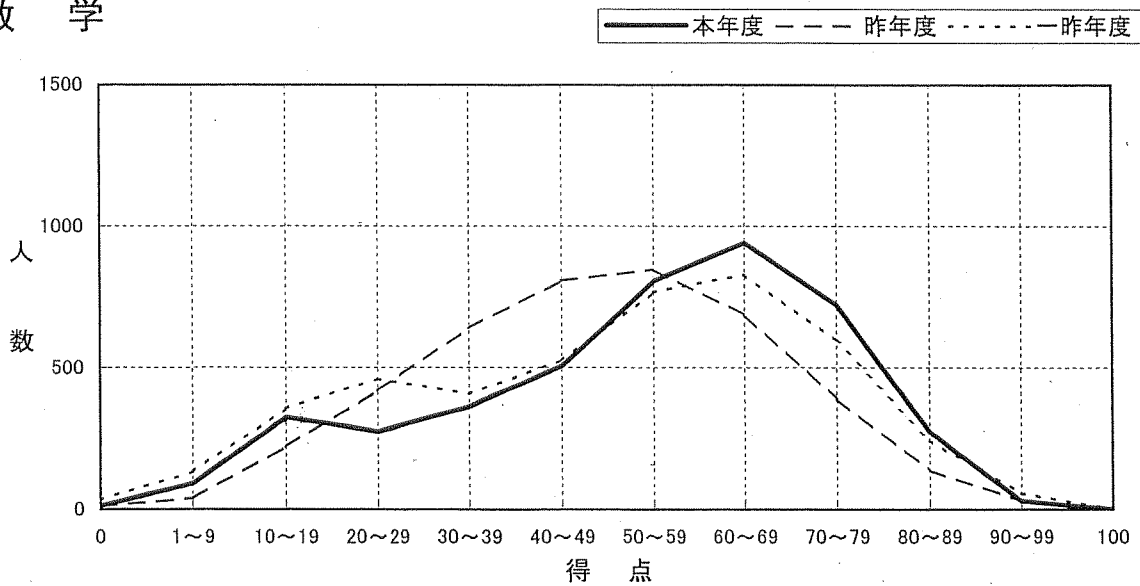
5教科総合の平均点



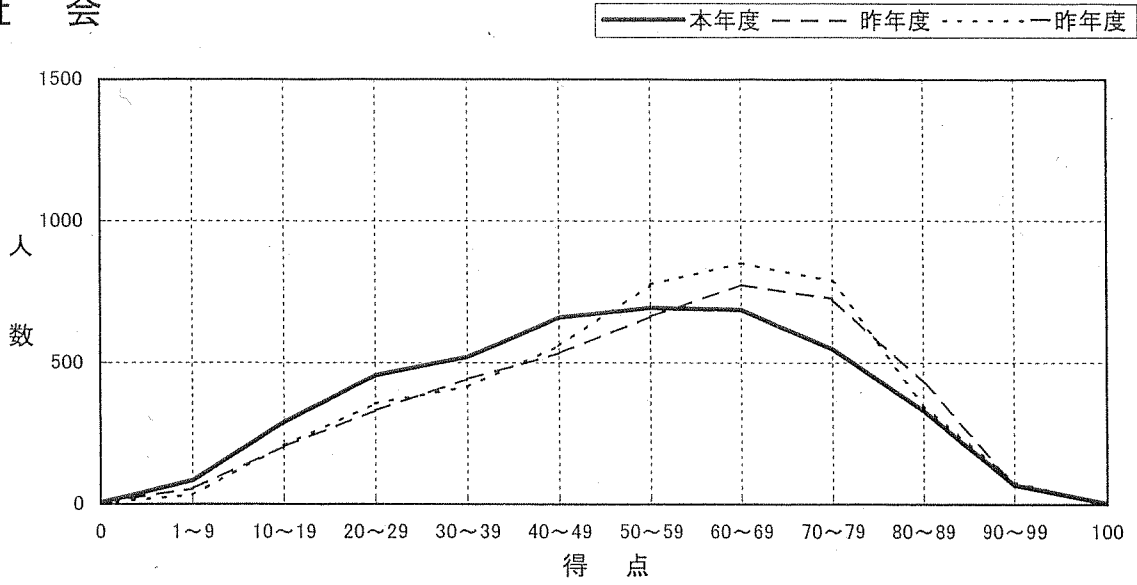
国語



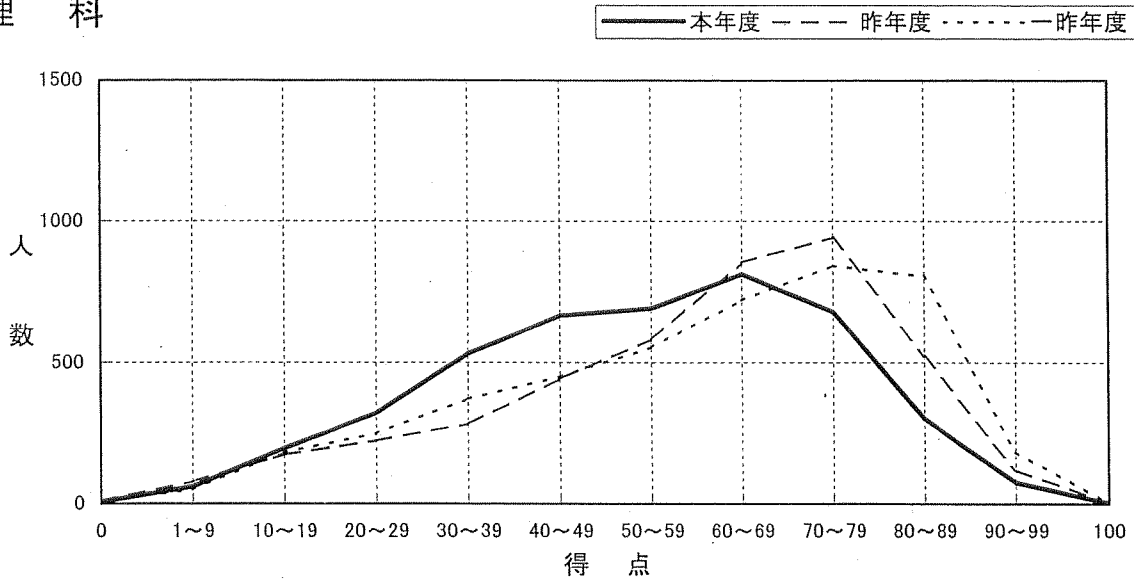
数学



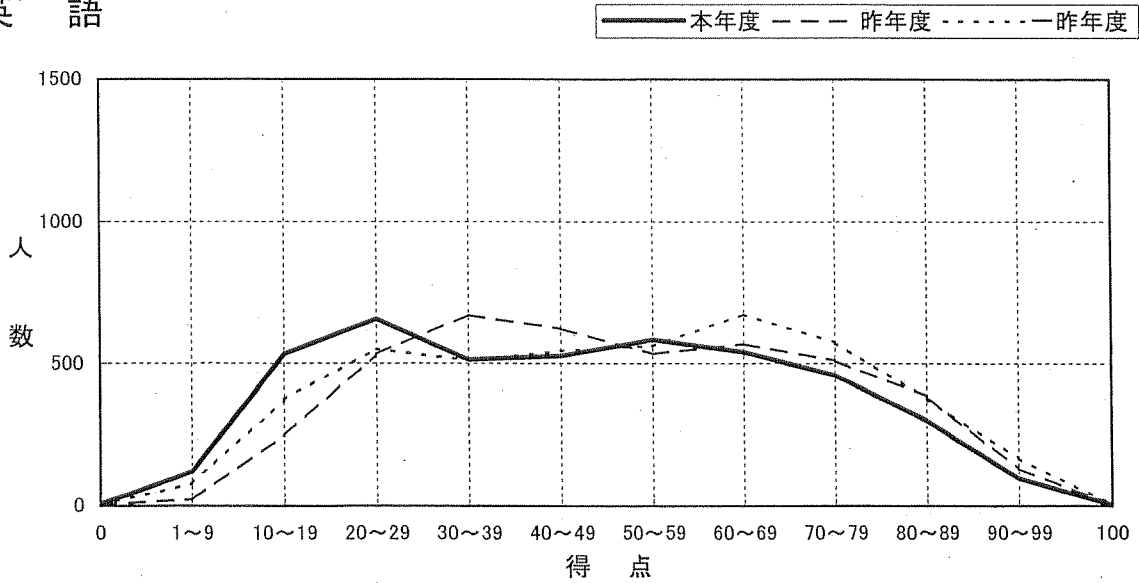
社会



理科



英語



平成22年度 徳島県公立高等学校入学学力検査(後期選抜)成績結果の概要

教科	成績結果の概要
国語	<p>平均点は55.5点で、過去5か年の平均点に比べて8.9点低く、昨年より11.6点低い点数であった。</p> <p>漢字の読み書きや古文の基本事項やインタビューの読み取りについては、おおむね良好な結果となっている。しかし、35字や70字以内での要約を必要とする記述問題については、昨年と同様、正答率が低く、無答率も高かった。本文全体の論旨や主題、構成、表現の特徴を読み取る問題に苦手意識が見られたが、特に古文では、基本的ではあったものの、登場人物の多さからか、主語を問う問題や内容をまとめる問題の正答率が低かった。</p>
数学	<p>平均点は53.2点で、過去5か年の平均点に比べて2.2点高く、昨年より4.7点高い点数であった。</p> <p>数や文字式の計算、平面図形の性質などの基礎的・基本的事項の理解力をみる問題は良好な結果となっている。しかし、文章や図を正しく読み取り根拠を示して判断する問題、規則的に変化する数の性質を理解する問題、図形の証明問題など、論理的な思考力、必要な情報を読み取る読解力、言葉や式による表現力をみる問題は、正答率が低かった。</p>
社会	<p>平均点は50.8点で、過去5か年の平均点に比べて8.4点低く、昨年より4.4点低い点数であった。</p> <p>資料を用いた問題でも「200海里」や「政府の銀行」、「千歯こき」などの聞き慣れた語句を答える問題は、良好な結果となっている。しかし、中学3年の1～3月に学習する公民の国際社会の問題や、統計数値から関連する様々な知識を活用して都道府県を判断する問題、また、歴史の舞台となった場所を地図から選ぶ問題や現代史の並べかえ問題では、正答率が低かった。また、文章記述や郷土史に関する問題も正答率が低かった。</p>
理科	<p>平均点は53.6点で、過去5か年の平均点に比べて6.5点低く、昨年より5.6点低い点数であった。</p> <p>動物の細胞、静電気、だ液のはたらきの実験に関する問題など、基礎的・基本的な知識・技能の定着をみる問題は、良好な結果となっている。また、蒸留の実験、柔毛のはたらきについて説明する文章記述の問題においても、良好な結果となっている。しかし、実験データなど複数の資料から必要な情報を取り出し、数値処理して答えを導く問題など、定量的な問題では、正答率が低かった。</p>
英語	<p>平均点は46.3点で、過去5か年の平均点に比べて10.8点低く、昨年よりも4.9点低い点数であった。</p> <p>基本的な対話を完成させる問題や英作文の並べかえ問題、表と短い英文を合わせて読み取る問題は正答率が高かった。しかし、英文の内容を把握して日本語で記述する問題や、長めの英文で答える英問英答問題、英文の要約を完成させる問題など、日本語や英語の文章で表現する力をみる問題では大きく差がついた。また、リスニング問題では、英語の授業中に教師がする英語による説明を聞いて答える問題の正答率が全般的に低かった。対話形式の長文が短くなったため、昨年よりも無答率は減ったものの、英文を正確に聞き、読み、書く力の差が出たようである。</p>